

サイエンスモール in 飯塚 17、18 日に

九工大や気象台が
ブース設置や実験

子どもたちに科学の楽しさを知ってもらおうと、地元の大企業や高校、企業が出展する「サイエンスモール in 飯塚」が 17、18 日、飯塚市飯塚のコミュニティセンターを主会場に開かれる。

市図書館や九州工業大、西日本新聞社などでつくる実行委員会が主催。18 日開催の「科学広場」には、33 団体がブースを構える。発学生物学の権威で帝京大客員教授、東京大名誉教授の塩川光一郎氏と一緒にアフリカツメガエルの生態を学ぶ区画や、接着剤を用いたスライムの実験、3D プリンターを使った装飾品作りなど、子どもから大人まで楽しめる内容。初出展の福岡管区気象台は雨粒の形を見る実験と、ペットボトルの中に雲を作る実験を実施。市内のラジコン専門店「エアクラフト」のブースでは、小型無人機「ドローン」の操縦が体験できる。

17 日は大学の研究者らでつくる応用物理学学会が「リフレクシユ理科教室」を開催。子どもにも分かりやすく、海を漂つこみの不思議や資源ごみの実態に迫る。

両日とも午前 10 時～午後 4 時。入場無料。JR 飯塚駅、魚市場臨時駐車場、JR 新飯塚駅と会場を巡回するシャトルバスも 45 分おきに運行する。問い合わせは市図書館 094-8(22)5552。(山本諒)

最先端科学 膨らむ好奇心



⑤接着剤を使ってスライムを作る近大福岡高の生徒
⑥九工大飯塚キャンパス技術部は、3Dプリンターで立体的なアークセサリを作る

接着剤スライム

3Dプリンター

ものづくり楽しく体験

サイエンスモール in 飯塚で体験できる科学の不思議を、記者が事前に見学した。

◇ ドロドロのスライムを手のひらで転がしていると、徐々に液状になっていく。近畿大産業理工学部の実験室で、近大福岡高の科学研究会の 2 年柴田航志さん(17)が

「接着剤の量が少なかったかな。調整してもう一度試してみます」とつぶやいた。科学研究会の部員が木工用接着剤を使ったスライム作りに取り組む。

「混ぜる物質の量を記録してください。一番適した材料の比率を調べましょう。同大産業理工学部の菅野憲一教授が指導し、紙コ

ップに木工用接着剤、砂糖、ホウ砂水溶液を入れ、かき混ぜていく。5 分もすると、スライムができあがった。

菅野教授によると、科学の世界では接着剤を使ったスライムは一般的。しかし、接着剤がスライム状になる過程は詳細には分かっていない。実験は 18 日の「科学広場」でも実演する。参加者は、研究会のメンバーと一緒に接着剤がどのような化学結合を経てスライムになるのか考える。

◇ 九工大飯塚キャンパス技術部は「3Dプリンター」を使い、6 種類のオリジナルチャーム(装飾品)を作る。

技術部の職員がコンピューター上で飛行機や車の立体画像を作成し、3Dプリンターに出力すると、内部のアームが機敏に動き始めた。アームの先端から、約 200 度に熱せられた「ポリ乳酸」と呼ばれる素材が噴出されていく。

職員(肥後寛さん(47))によると、ポリ乳酸が固まるのは約 170 度。冷やしながらか、層状に積み上げていくと、思い通りの形状ができる仕組みだという。

肥後さんは「ものづくりは、科学の力で大きく進化している。最先端技術を見て、創造力を膨らませてほしい」と話した。